

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03632

研究課題名(和文) 企業内データを用いた企業間生産性格差と労働政策課題の解明

研究課題名(英文) Study of Productivity Differences among Firms and Labor Policy Issues using Personnel and Other Internal Corporate Data

研究代表者

大湾 秀雄 (Owan, Hideo)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：60433702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,040,000円

研究成果の概要(和文)：労働者の健康に影響を与える職場要因、健康経営施策の効果検証、健康と生産性/労働市場評価等健康に関する論文が7件(うち査読付き2件)あった。中間管理職の役割やそのスキルに関する論文が4件(うち査読付き1件)で、人的資本投資やスキル活用に関する論文が3件(うち査読付き2件)あった。その他、インセンティブ設計の定量的効果測定に関する論文、働き方改革の効果に関する論文、評価バイアスに関する論文、技術革新が雇用に与える影響に関する論文など、人事経済学に関連する幅広いテーマについて、過年度の活動成果があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

企業の内部データを用いて、政府統計やアンケート調査では明らかにできない内部労働市場の働きを明らかにする本研究課題のアプローチは学術的新規性が高い成果を生み出した。また、生産性向上や労働者のウェルビーイング向上につながる数多くの知見をもたらした。例えば、健康に関して、どのような健康経営施策が生産性効果を持つか、中間管理職にどのように介入したら良いかといった提言につながる。また、評価や育成施策においても、近年の仕事の高度化と管理職の役割変化を踏まえ、管理職をどのように育成、評価すれば良いか、労働者の成長や人材活用を高めるためにどのような仕組みを導入すれば良いかに関して知見を提供できる。

研究成果の概要(英文)：There were seven papers (including two peer-reviewed) on health, including workplace factors affecting workers' health, the effectiveness of health management measures, and health and productivity/labor market assessment. There were four papers (including one peer-reviewed paper) on the role of middle management and their skills, and three papers (including two peer-reviewed papers) on human capital investment and skill utilization. Other results of past years' activities on a wide range of topics related to personnel economics include a paper on measuring the quantitative effects of incentive design, a paper on the effects of work style reform, a paper on evaluation bias, and a paper on the impact of technological innovation on employment.

研究分野：労働経済学

キーワード：人事経済学 生産性 健康経営 働き方改革 マネジメントスキル コーディネーション 異動配置
フィールド実験

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

経済学における一つの大きな問いはなぜ異質性が存在するのかということである。企業間の生産性には大きな違いがあり、それが縮小せずに持続する原因を明らかにするため、多くの研究が行われてきた (Syverson 2011)。Syverson(2011)も指摘するように、経営施策の違い、労働の質の違い、組織構造の違い、経営者の資質の違いなどは大きな要因であると考えられている (Bloom and Van Reenen 2007, Bertrand and Scholar 2003)。こうした企業内に起因する異質性が生産性格差の大きな原因であること、そしてこうした企業内に見られる異質性がなぜ存在するか明らかにするために、企業内データを活用した実証研究の重要性は年々高まっている。報酬制度による生産性の違い (Lazear 2000)、職の設計の違いによる生産性の違い (Hamilton, Nickerson, and Owan 2003)、中間管理職による生産性の違い (Lazear, Shaw, and Christopher 2015)、CEOによる生産性の違い (Bandiera et al. 2016)、組織設計による生産性の違い (Gokpinar et al. 2010) など、組織というブラックボックスの中を可視化することによって、生産性の差異の源泉が明らかになりつつある。Ichniowski and Shaw (2012)によると、インサイダーエコノメトリクスと呼ばれるこうした研究の多くは、(1) 経営施策の生産性効果、(2) 経営施策が生産性に影響を与えるメカニズム、(3) 経営施策採用の意思決定、の解明に取り組むという。しかし、申請者らは、企業内データの活用を施策の効果の事後的な評価にのみ限定するのは、その可能性と重要性を過小評価することになると考える。単純に施策の効果を見るといっただけならば、企業が新しい施策を導入するまで、その企業の効率性を判断する機会は現れない。また、施策を導入する企業としない企業の異質性がある限り、一つの企業で明らかになったことがどの程度他企業にも一般化出来る普遍性を持つものなのかという外的妥当性の問題に直面する。現在企業の中に蓄積されているデータは、10年前と比べて大きく変わってきている。従業員や経営者の意思決定プロセス、コミュニケーション、非認知能力の評価などの情報が蓄積される中、個人レベルで人間の行動原理やセレクションを観測する機会が生まれつつある。事後的に施策の効果を見るのではなく、現時点でどのような非効率あるいは改善機会が生じているかを推察し、必要な施策を提案することで、より正しく施策の効果を計測する機会を研究者自身が作っていくことを一つの研究のスタイルとして提示したい。それを通じて、生産性格差の源泉についての理解も進むと期待する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、企業と共に経営課題を解明し、その解決のための施策を提案し、その施策の効果を確認するための手法を開発し、実際にそれを測定することを目指している。そのために、プロジェクトの中に、企業にデータ活用方法を教え、改善機会を共に議論する探索的な機能と、実際に企業内データの提供を受け学術的な研究を行う分析遂行機能を併せ持つ。研究代表者が東京大学社会科学研究所で開始した人事情報活用研究会では、数年前から参加企業に対し、保存すべきデータや活用方法についての助言を行ってきた。こうした企業の中に入り込んで、研究課題を発掘し、そのテーマに即したデータの取得を目指すのが本研究の独自性である。こうしたアプローチはとりわけ新型コロナ感染蔓延中に企業と協力して社員アンケートを実施し、在宅勤務における問題点を洗い出すといった分析を行う際に威力を発揮した。テーマの範囲は、男女格差、研修、評価、働き方改革、メンタルヘルス、健康経営施策、チーム生産性、中間管理職の役割と生産性、組織内イノベーション、など人事経済学の範囲を超えて多岐にわたる。

3. 研究の方法

データの取得方法としては、大きく分けて、事前の準備から参加するケースと、社内に存在するデータを事後的に二次利用で提供を受ける場合の2つがある。企業と一緒にアンケート調査の設計を行ったり、フィールド実験を実施する場合には、セレクションバイアスがかからないよう、対象範囲を出来るだけ広く取る。因果関係を明らかにするために、実験においてはランダム化比較試験 (RCT) を行う。例えば、禁煙プログラムや睡眠改善プログラムといった健康経営施策の効果検証を行う場合、まずは参加希望者を募り、その中からランダムに介入群と対照群に振り分ける。推計の精度を上げるため、事前と事後で2回アンケート調査を実施もしくは前後の人事データを用いてANOVA推計を行う (高橋その他 2021年、Kawata et al. 2023)。

記述的な論文で、因果関係を証明するのではなく、ストーリーと整合的な相関関係を示した論文もいくつかあるが (例えば、Sato, Hashimoto and Owan 2020, Takahashi, Owan, Tsuru and Uehara 2019, Kawata and Owan 2020, Kitagawa et al. 2021) 多くのプロジェクトで因果関係を示した。事後的に人事データや業務データを二次利用として提供を受ける場合は、RCTを使えないので、以下のうちのいずれかの方法で因果関係を捉える。

- (1) 施策導入やプログラムへの参加がほぼ外生的な要因で決まることを示した上で、傾向スコアマッチングによって介入群と対照群を定義し、差の差分分析、もしくは固定効果モデルでの推計を行う (Sato, Kuroda and Owan 2020, Sato, Nakamuro and Owan 2019, Takahashi et al. 2024, Sato, Kuroda and Owan 2024)。
- (2) 国の政策変更や景気変動による需要の落ち込みといった外生的なショックを操作変数として活用して二段階最小二乗法を用いる (Onishi, Owan and Nagaoka 2020, Shanguan, DeVaro and Owan

2021)。

- (3) 人事異動がアウトカムとは無関係な独立要因で決定されることを示した上で、上司効果(上司によるアウトカムへの時間不変の影響)を推計し、上司の交代がアウトカムに与える影響を求める(Okudaira et al. 2024) または離職率の低い会社において部署間の年齢構成の違いを操作変数として、それを通じたマネジャーの負荷の増大の影響を求める(Dessein et al. 2024)。

4. 研究成果

本研究課題は、健康経営、人的資本投資、インセンティブ設計、高齢者雇用、働き方改革、非正規雇用、中間管理職の役割といったテーマでの多くの有益な成果を出した。

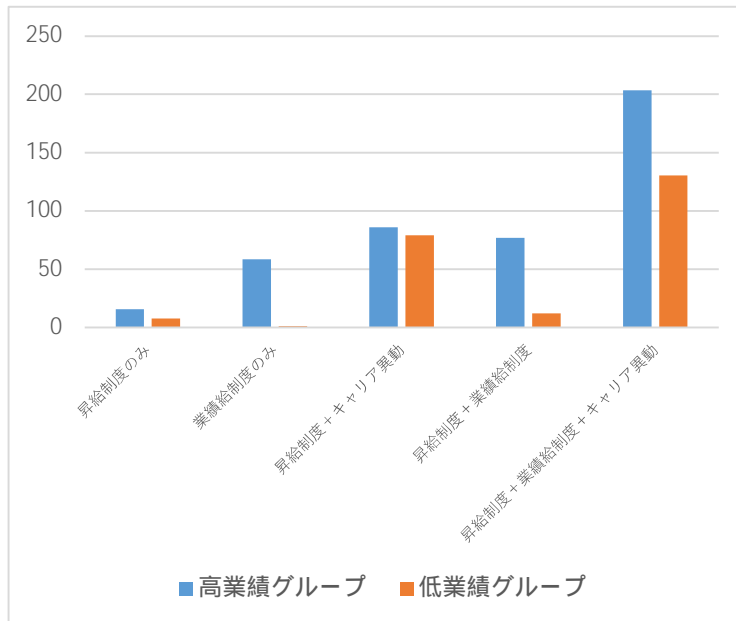
健康経営に関して、製造業企業1社の健康サーベイと勤怠データを紐づけたデータを用いて、労働時間に加え、いつ働くか、休憩を取れているかが、労働時間がメンタルヘルスに与える影響を見る上で重要であることを示した(Sato, Kuroda and Owan 2020)。製造業企業1社の協力を得て、その社員に対して行った禁煙支援プログラムの影響評価を行い、禁煙は、たばこ休憩時間の解消、プレゼンティーズムの改善、アブセンティーズムの減少を通じて、短期的にも生産性を押し上げることを明らかにした(Takahashi, Nakamuro and Owan)。製造業企業1社の労働者のパネルデータを用いて、労働時間や働き方のメンタルヘルスへの影響が個人の性格特性や職種特性によってどの程度異なるかを明らかにした(Sato, Kuroda and Hideo Owan 2024)。製造業企業1社のデータを用いて、大卒と高卒の間の健康格差が有意に大きいこと、要因分解分析を通じて、格差の半分は健康習慣の違いで説明できることを明らかにした(Aizawa 2022)。

人的資本投資に関しては、某製造業企業で導入された全管理職を対象としたコーチングトレーニングの効果を、傾向スコアマッチング/差の差分析により推計し、人事考課や昇進確率への統計的に有意な影響を確認した(Sato, Nakamuro and Owan 2019)。派遣会社から提供されたデータを用いて、一般的研修やLearning-by-doingを通じて上昇した生産性の伸びは賃金の伸びよりも高く、賃金の圧縮分は生産性の伸びの40%であり、労働市場の摩擦が企業の投資インセンティブを作りだしていることを明らかにした(Dong, Hyshop and Kawaguchi 2023)。

インセンティブ設計に関して、特許法の改正に伴い、研究開発者向けの実績ベースの発明報奨金を増やしたことが、ハイリスクなプロジェクトより安全に成果を出せるプロジェクトへ、テーマをシフトさせた可能性があることを示した(Onishi, Owan and Nagaoka 2020)。自動車販売会社の営業社員の人事データを用いて、短期インセンティブである業績給よりも昇進などの長期インセンティブの方が生産性押し上げ効果は高く、またこの二つの間には補完性があり、両方導入した時に、インセンティブ効果は最も高いことなどを明らかにした(Bichen et al. 2023 図1参照)。

高齢者雇用に関して、製造業企業の人事データと従業員サーベイ結果を用いて、高齢者再雇用は周りの同

図1 インセンティブ設計による生産性押し上げ効果 (Bichen et al. 2023)



僚の満足度や研修量に対し、年齢や職位によって異質性の高い影響を及ぼすことを明らかにした(Kawata and Owan 2020)。

長時間労働や働き方改革に関連して、みずほリサーチ&テクノロジーズと共同で大手都市銀行の顧客企業を対象に働き方改革の実態調査を行い、ノンコア事業のアウトソーシングや選別受注による効率化のための事業優先化政策が、一人当たり売上高や利益にプラスの効果をもたらしたことや、柔軟な働き方が残業を減らし、利益を増加させたことなどを明らかにした(Takahashi et al. 2024)。また、建築設計会社のプロジェクト管理データを用いて、金融不況後の需要の低下が、長時間労働の是正を通じて、生産性改善につながったエビデンスを示した。長時間労働の減少が疲労の解消・集中力の高まりにより個々人の生産性を高め

ただけでなく、さらにチーム内業務の再配分を通じてより生産性の高い人に傾斜配分されていた(Shangguan, DeVaro and Owan 2021)。

非正規雇用の問題については、空輸業における人事データを用いて、客室乗務員の非正規化が、離職率を高め、出産時期を遅らせる一方、逆に正規化がそれと逆の変化を引き起こすことを示した(Asai and Koustas 2023)。

中間管理職の役割に関しては、経営コンサルティング企業と協力して、同社のスキル評価のデータを用い、上司のスキルが部下及び本人の生産性、離職、評価、昇進にどのような影響を与えているか分析を行い、上司の People Management Skill (部下の育成や支援)は部下と上司本人の評価を高め、部下の離職を低下させるが、上司の昇進には影響を与えない一方、上司の Senior Management Skill (戦略策定、情報収集、コーディネーション、コミュニケーションスキルなど)は部下の離職率の低下と上司の昇進確率向上に役立つことを明らかにした(Asuyama and Owan 2024)。建築設計会社のプロジェクトマネジメントデータを用いて、(1)プロジェクトの進行は、まずプロジェクトマネジャーの労働投入(事前コーディネーション)があり、それに続いてチームの時間投入量が増えること、(2)事前調整の重要性は、計画・開発管理・意匠設計といった知識集約度が高いプロジェクトほど、あるいは新規顧客や遠方のプロジェクトといった情報摩擦の高いプロジェクトほど高く、マネジャーの初期投入時間が多いこと、(3)マネジャーの実際の時間投入パターンが、類似のプロジェクトで通常投入される予測投入量から乖離したプロジェクトでは、事後的にチームの労働時間が長くなり、全体的な収益性が低下すること、などを明らかにした(Dessein, Lo, Shangguan and Owan 2024)。

また、当初の研究計画にはなかったものの、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、急遽大手製造業企業4社においてコロナ禍での在宅勤務調査を実施し、緊急事態宣言後の生産性の低下の主要な要因は、自宅で仕事をを行ううえでのPC・通信インフラの未整備や、社内外とのコミュニケーションの問題が大きいことを明らかにした。一方、在宅勤務は従業員のメンタルヘルスを改善することもわかった(Kitagawa et al. 2021)。

日本語

- 黒田祥子, 「健康資本投資と生産性」日本労働研究雑誌, 695, 2018: 30-48.
- 川口大司, 「生産性分析における労働投入の測定 - 派遣労働市場からの知見 - 」経済研究, 69(4), 2018:328-345
- 佐藤香織, 「労働者のメンタルヘルスと働き方改革」日本健康教育学会誌, 26(3), 2018, 283-290
- 黒田祥子・山本勲, 「長時間労働は正と人的資本投資との関係」RIETI Discussion Paper, 19-J-022, 2019.
- 黒田祥子・山本勲, 「働き方、健康、生産性との関係 ~労働生産性の経済学指標の検討」産業精神保健, 28(1), 2020.
- 佐藤香織, 黒田祥子, 大湾秀雄, 「働き方・休み方と労働者のメンタルヘルス: 一日本企業の勤怠データを用いた検証。」RIETI Discussion Paper 20-P-019, 2020.
- 佐藤香織, 「管理職への昇進の変化-「遅い昇進」の変容とその影響」日本労働研究雑誌, 724, 2020: 19-24.
- 朝井友紀子, 地曳暁瑛, 「保育士の処遇改善と労働供給 (An Analysis of the Labor Supply of Childcare Providers)」, 経済分析 (内閣府経済社会総合研究所), 202号, 2021: 148-171
- 山本勲・福田皓・永田智久・黒田祥子, 「健康経営銘柄と健康経営施策の効果分析」RIETI Discussion 21-J-037, 2021.
- 黒田祥子・山本勲・島津明人・ウィルマー B. シャウフエリ, 「従業員のポジティブメンタルヘルスと生産性との関係」, RIETI Discussion Paper 21-J-043, 2021.
- 高橋 孝平, 中室 牧子, 大湾 秀雄, 「禁煙プログラムの生産性への短期的影響」RIETI Discussion Paper 21-J-032, 2021.
- 佐藤香織, 「働き方の諸側面と労働者のメンタルヘルス1) 労働の量・時間帯・場所とストレスの関係」行動科学 62, 2023年
- 川太悠史・北川梨津・高橋孝平・大湾秀雄・黒田祥子, 「健康経営と生産性」日本労働研究雑誌, No. 762, 2024年

英語

- Sato Kaori, "People Analytics to Understand Mental Health Issues", Social Science Japan Newsletter, 59, 2018.
- Jin-Hyuk Kim, Takehiko Komatsu, Hideo Owan, "The Role of Design Method and Process Technology in Stable Outsourcing Equilibria" International Journal of Industrial Organization, 69, 2020.
- Kaori Sato, Sachiko Kuroda, and Hideo Owan, "Mental health effects of long work hours, night and weekend work, and short rest periods", Social Science & Medicine, 246, 2020.
- Kaori Sato, Yuki Hashimoto, Hideo Owan, "Gender Differences in Career", Journal of the Japanese and International Economies, 53, 2019.
- SATO Kaori, NAKAMURO Makiko, OWAN Hideo, "The Effect of Interpersonal Skills on Worker Performance", RIETI Discussion Paper 19-E-045, 2019.
- Daiji Kawaguchi and Ayako Kondo, "The effects of graduating from college during a recession on living standards, Economic Inquiry, Vol. 55, No. 1, 2020: 283-293.
- Shingo Takahashi, Hideo Owan, Tsuyoshi Tsuru and Katsuhito Uehara, "Multi-tasking Incentives and informativeness of Subjective Performance Evaluation", Industrial and Labor Relations Review Review, 74(2), 511-543.
- Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, "Effects of Subsidized Childcare on Mothers' Labor Supply Under a Rationing Mechanism", Labour Economics, 55, 2018: 1-17.
- Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi, "How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?", Labour Economics, 55, 2018: 56-71.
- Izumi Yokoyama, Kazuhito Higa and Daiji Kawaguchi, "Employment Adjustments of Regular and Non-Regular

Workers to Exogenous Shocks: Evidence from Exchange-Rate Fluctuation”, *Industrial and Labor Relations Review* 74(2), 2021: 470-510.

- Yukiko Asai, “Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms”, RIETI Discussion Paper 19-E-024, 2019.
- Koichiro Onishi, Hideo Owan, Sadao Nagaoka, “How Do Inventors Respond to Financial Incentives? Evidence from Unanticipated Court Decisions on Employee Inventions in Japan”, *Journal of Law and Economics*, 2020.
- Koichiro Onishi and Hideo Owan, “Heterogenous Impacts of National Research Grants on Academic Productivity”, RIETI Discussion Paper 20-E-052, 2020.
- Hiroko Okudaira, “Regulating the timing of job search: evidence from the labor market for new college graduates” *Labour Economics*, 67, 2020.
- Ruo Shangguan, Jed DeVaro, Hideo Owan, “Enhancing Team Productivity through Shorter Working Hours: Evidence from the Great Recession”, RIETI Discussion Paper, 21-E-040, 2021.
- Sachiko Kuroda, “Future-proofing Japan’s labour-market recovery”, *East Asian Forum*, 12(3), 2020.
- Yukiko Asai and Dmitri Koustas, “Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes” *Journal of Economic Behavior and Organization*, 208, 2023.
- Koichiro ONISHI and Hideo Owan, “Information Advantage or Bias Related to Social Ties: Evidence from a Peer Review System for National Research Grants”, RIETI Discussion Paper 22-E-096, 2020.
- Arandarage Mayura Prasad Arandara, Shingo Takahashi, “Productive managers, productive branches, and the rewards. Evidence from the cooperative banks in Sri Lanka” *Applied Economics*, 55(54), 2023.
- Hasegawa Yuichi, Ido Kaito, Kawai Shino, Kuroda Sachiko, “Who took gig jobs during the COVID-19 recession? Evidence from Uber Eats in Japan” *Transportation Research Interdisciplinary Perspectives*, 2022.
- Kuroda, Sachiko and Koichiro Onishi, “Exploring the Gig Economy in Japan: A bank data-driven analysis of food delivery gig workers”, RIETI Discussion Paper 23-E-025, 2023.
- Ritsu Kitagawa, Sachiko Kuroda, Hiroko Okudaira, Hideo Owan, “Working from home and productivity under the COVID-19 pandemic: Using survey data of four manufacturing firms”, *PLOS ONE*, 16, 2021.
- Daiji Kawaguchi and Hiroyuki Motegi, “Who can work from home? the roles of job tasks and HRM practices” *Journal of the Japanese and International Economies*, 62, 2021.
- Taiyo Fukai, Masato Ikeda, Daiji Kawaguchi, Shintaro Yamaguchi, “COVID-19 and the employment gender gap in Japan”, *Journal of the Japanese and International Economies*, 68, 2023.
- Daiji Kawaguchi, Sagiri Kitao, and Nose Manabu, “The impact of covid-19 on japanese firms: mobility and resilience via remote work.”, *International Tax and Public Finance*, 2022.
- Daiji Kawaguchi and Takahiro Toriyabe, “Measurements of Skill and Skill-use using PIAAC” *Labour Economics*, 78, 2022.
- Daiji Kawaguchi, Jungmin Lee, Ming-Jen Lin, and Izumi Yokoyama, “Is Asian Flushing Syndrome a Disadvantage in the Labor Market?” *Health Economics*, 32(7), 2023.
- AIZAWA, Toshiaki, “Educational Gradient in Physiological Risk Factors in a Workplace: A decomposition analysis of biomarkers” RIETI Discussion Paper 22-E-046, 2022.
- Yuji Kawata and Hideo Owan, “Peer Effects on Job Satisfaction from Exposure to Elderly Workers”, *Journal of the Japanese and International Economies*, 63, 2022.
- Yutaro Izumi, Daiji Kawaguchi, Sachiko Kuroda, Taiga Tsubota, “Exemption and Work Environment”, CREPE Discussion Paper No.147, 2023.
- Xinwei Dong, Dean R. Hyslop, Daiji Kawaguchi, “Skill, productivity and wages: Direct evidence from a temporary help agency.” *Journal of Labor Economics*, 42(2), 2024.
- Yuji Kawata and Sachiko Kuroda and Hideo Owan, “The impact of a mobile app-based corporate sleep health improvement program on productivity: Validation through a randomized controlled trial”, *PLOS ONE*, 18(10): e0287051, 2023.
- Bicheng Yang, Tat Chen, Hideo Owan and Tsuyoshi Tsuru, “Incentives from Career Concerns in a Contract Package: An Empirical Investigation”, *Management Science*, 25, 2023: 1-24.
- Kohei Takahashi, Naomi Kodama, Kentaro Arita, Haruka Kazama, Saisuke Sakai, Masaya Takeuchi, and Hideo Owan, “Has Japan’s Work Style Reform Had the Intended Effect?”, *Applied Economics*, forthcoming.
- Yoko Asuyama and Hideo Owan, “People Management Skills, Senior Leadership Skills and the Peter Principle”, RIETI Discussion Paper 24-E-037, 2024.
- Wouter Dessein, Desmond (Ho-Fu) Lo, Ruo Shangguan and Hideo Owan, “The Management of Knowledge Work” RIETI Discussion Paper 24-E-044, 2024.
- Kaori Sato, Sachiko Kuroda and Hideo Owan, “Personality traits and occupation as moderators of the effect of working hours on mental health”, RIETI Discussion Paper 24-E-048, 2024.
- Hiroko Okudaira, Ritsu Kitagawa, Toshiaki Aizawa, Sachiko Kuroda and Hideo Owan, “Middle Managers and Employee Health”, RIETI Discussion Paper 24-E-053, 2024.
- Daisuke Adachi, Daiji Kawaguchi and Yukiko Saito, “Robots and Employment: Evidence from Japan” *Journal of Labor Economics*, 42(2), 2024.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 33件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 Yukiko Asai & Dmitri Koustas	4. 巻 Volume 208
2. 論文標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Economic Behavior and Organization	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jebo.2023.02.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 朝井友紀子、地曳暁瑛	4. 巻 第202号
2. 論文標題 「保育士の処遇改善と労働供給 (An Analysis of the Labor Supply of Childcare Providers)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内閣府経済社会総合研究所 「経済分析」	6. 最初と最後の頁 148-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bicheng Yang, Tat Chan, Hideo Owan and Tsuyoshi Tsuru	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Incentives from Career Concerns in a Contract Package: An Empirical Investigation	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Management Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Koichiro ONISHI, Hideo Owan	4. 巻 22-E-096
2. 論文標題 Information Advantage or Bias Related to Social Ties: Evidence from a Peer Review System for National Research Grants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arandarage Mayura Prasad Arandara, Shingo Takahashi	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Productive managers, productive branches, and the rewards. Evidence from the cooperative banks in Sri Lankaforthcoming	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Applied Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山本勲・福田皓・永田智久・黒田祥子	4. 巻 21-J-037
2. 論文標題 健康経営銘柄と健康経営施策の効果分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川太悠史・黒田祥子・大湾秀雄	4. 巻 21-J-040
2. 論文標題 睡眠改善アプリを用いた健康経営施策が生産性に与えた影響：RCTに基づく検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子・山本勲・島津明人・ウィルマー B. シャウフェリ	4. 巻 21-J-043
2. 論文標題 従業員のポジティブメンタルヘルスと生産性との関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 44952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hasegawa Yuichi, Ido Kaito, Kawai Shino, Kuroda Sachiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Who took gig jobs during the COVID-19 recession? Evidence from Uber Eats in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Transportation Research Interdisciplinary Perspectives	6. 最初と最後の頁 100543 ~ 100543
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.trip.2022.100543	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, Sachiko and Koichiro Onishi	4. 巻 23-E-025
2. 論文標題 Exploring the Gig Economy in Japan: A bank data-driven analysis of food delivery gig workers	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ritsu Kitagawa, Sachiko Kuroda, Hiroko Okudaira, Hideo Owan	4. 巻 16
2. 論文標題 Working from home and productivity under the COVID-19 pandemic: Using survey data of four manufacturing firms	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 0261761-0261761
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0261761	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Kawaguchi and Hiroyuki Motegi	4. 巻 62
2. 論文標題 Who can work from home? the roles of job tasks and HRM practices	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Yokoyama, Kazuhito Higa, and Daiji Kawaguchi	4. 巻 74(2)
2. 論文標題 Employment adjustments of regular and non-regular workers to exogenous shocks: Evidence from exchange-rate fluctuation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ILR Review	6. 最初と最後の頁 470-510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0019793919887961	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taiyo Fukai, Masato Ikeda, Daiji Kawaguchi, Shintaro Yamaguchi	4. 巻 68
2. 論文標題 COVID-19 and the employment gender gap in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101256-101256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2023.101256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Kawaguchi, Sagiri Kitao, and Nose Manabu	4. 巻 -
2. 論文標題 The impact of covid-19 on japanese firms: mobility and resilience via remote work.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Tax and Public Finance	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10797-022-09749-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Adachi, Daiji Kawaguchi and Yukiko Saito	4. 巻 -
2. 論文標題 Robots and Employment: Evidence from Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Labor Economics	6. 最初と最後の頁 1978-2017
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.46672/ms.22.2.3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Kawaguchi and Takahiro Toriyabe	4. 巻 78
2. 論文標題 Measurements of Skill and Skill-use using PIAAC	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Labour Economics	6. 最初と最後の頁 102197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.labeco.2022.102197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Kawaguchi, Jungmin Lee, Ming-Jen Lin, and Izumi Yokoyama	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Is Asian Flushing Syndrome a Disadvantage in the Labor Market?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Health Economics.	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋 孝平, 中室 牧子, 大湾 秀雄	4. 巻 21-J-032
2. 論文標題 禁煙プログラムの生産性への短期的影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上官 若, Jed DEVARO, 大湾 秀雄	4. 巻 21-E-040
2. 論文標題 Enhancing Team Productivity through Shorter Working Hours: Evidence from the Great Recession	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 孝平, 有田 賢太郎, 大湾 秀雄, 風間 春香, 児玉 直美, 酒井 才介, 竹内 誠也	4. 巻 21-J-021
2. 論文標題 働き方改革の広がりの実効性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 AIZAWA, Toshiaki	4. 巻 22-E-046
2. 論文標題 Educational Gradient in Physiological Risk Factors in a Workplace: A decomposition analysis of biomarkers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawata, Hideo Owan	4. 巻 Volume 63
2. 論文標題 Peer effects on job satisfaction from exposure to elderly workers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2021.101183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichiro Onishi, Hideo Owan, Sadao Nagaoka	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 How Do Inventors Respond to Financial Incentives? Evidence from Unanticipated Court Decisions on Employee Inventions in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Law and Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichiro Onishi and Hideo Owan	4. 巻 20-E-052
2. 論文標題 Heterogenous Impacts of National Research Grants on Academic Productivity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroko Okudaira	4. 巻 Volume 67
2. 論文標題 Regulating the timing of job search: evidence from the labor market for new college graduates	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Labour Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.labeco.2020.101941	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 孝平、有田 賢太郎、大湾 秀雄、風間 春香、児玉 直美、酒井 才介、竹内 誠也	4. 巻 -
2. 論文標題 働き方改革の広がり と実効性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ruo Shangguan, Jed DeVaro, Hideo Owan	4. 巻 -
2. 論文標題 Enhancing Team Productivity through Shorter Working Hours: Evidence from the Great Recession	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawata and Hideo Owan	4. 巻 -
2. 論文標題 Peer Effects on Job Satisfaction from Exposure to Elderly Workers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Yokoyama, Kazuhito Higa, Daiji Kawaguchi	4. 巻 74(2)
2. 論文標題 Employment Adjustments of Regular and Non-Regular Workers to Exogenous Shocks: Evidence from Exchange-Rate Fluctuation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ILR REVIEW	6. 最初と最後の頁 470-510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0019793919887961	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ritsu Kitagawa, Sachiko Kuroda, Hiroko Okudaira, Hideo Owan	4. 巻 Issue 74
2. 論文標題 Working from home: its effects on productivity and mental health	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Covid Economics	6. 最初と最後の頁 142-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sachiko Kuroda	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 Future-proofing Japan's labour-market recovery	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 East Asian Forum	6. 最初と最後の頁 30-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22459/EAFQ.12.03.2020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shingo Takahashi, Hideo Owan, Tsuyoshi Tsuru and Katsuhito Uehara	4. 巻 Volume: 74
2. 論文標題 Multi-tasking Incentives and informativeness of Subjective Performance Evaluation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Industrial & Labor Relations Review	6. 最初と最後の頁 511-543
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0019793919891980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤香織, 黒田祥子, 大湾秀雄	4. 巻 20-P-019
2. 論文標題 働き方・休み方と労働者のメンタルヘルス: 一日本企業の勤怠データを用いた検証.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤香織	4. 巻 724
2. 論文標題 管理職への昇進の変化-「遅い昇進」の変容とその影響.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤香織	4. 巻 51
2. 論文標題 日本企業における企業内訓練の動向と選抜型訓練の効果検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国土館大学経営学部経営研究所紀要	6. 最初と最後の頁 44216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko ASAI and Akiei JIBIKI	4. 巻 202
2. 論文標題 An Analysis of the Labor Supply of Childcare Providers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済分析	6. 最初と最後の頁 pp1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jin-Hyuk Kim, Takehiko Komatsu, Hideo Owan	4. 巻 69
2. 論文標題 The Role of Design Method and Process Technology in Stable Outsourcing Equilibria	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Industrial Organization	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijindorg.2019.102565	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kaori Sato, Sachiko Kuroda, Hideo Owan	4. 巻 246
2. 論文標題 Mental health effects of long work hours, night and weekend work, and short rest periods	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 1月11日
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.112774	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Sato, Yuki Hashimoto, Hideo Owan	4. 巻 53
2. 論文標題 Gender Differences in Career	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2019.04.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaori SATO, NAKAMURO Makiko, OWAN Hideo	4. 巻 19-E-045
2. 論文標題 The Effect of Interpersonal Skills on Worker Performance	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子・山本勲	4. 巻 No.19-J-022
2. 論文標題 長時間労働は正と人的資本投資との関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子・山本勲	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 働き方、健康、生産性との関係 ~労働生産性の経済学指標の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業精神保健	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Yokoyama, Kazuhito Higa and Daiji Kawaguchi	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Adjustments of regular and non-regular workers to exogenous shocks: Evidence from exchange-rate fluctuation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Industrial and Labor Relations Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Kawaguchi and Ayako Kondo	4. 巻 Vol. 55, No. 1
2. 論文標題 The effects of graduating from college during a recession on living standards	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Economic Inquiry	6. 最初と最後の頁 283-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ecin.12835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Asai	4. 巻 19-E-024
2. 論文標題 Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 独立行政法人経済産業研究所ディスカッションペーパー	6. 最初と最後の頁 pp1-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Asai	4. 巻 -
2. 論文標題 Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 VoxEU	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子	4. 巻 695
2. 論文標題 「健康資本投資と生産性」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 30-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口大司	4. 巻 第69巻 第4号
2. 論文標題 生産性分析における労働投入の測定 - 派遣労働市場からの知見 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 328-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤香織	4. 巻 26(3)
2. 論文標題 労働者のメンタルヘルスと働き方改革	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本健康教育学会誌	6. 最初と最後の頁 283-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Kaori	4. 巻 59
2. 論文標題 People Analytics to Understand Mental Health Issues	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Science Japan Newsletter	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jin-Hyuk Kim, Takehiko Komatsu, Hideo Owan	4. 巻 69
2. 論文標題 The Role of Design Method and Process Technology in Stable Outsourcing Equilibria	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Industrial Organization	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijindorg.2019.102565	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kaori Sato, Sachiko Kuroda, Hideo Owan	4. 巻 246
2. 論文標題 Mental health effects of long work hours, night and weekend work, and short rest periods	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.112774	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Sato, Yuki Hashimoto, Hideo Owan	4. 巻 53
2. 論文標題 Gender Differences in Career	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2019.04.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SATO Kaori, NAKAMURO Makiko, OWAN Hideo	4. 巻 19-E-045
2. 論文標題 The Effect of Interpersonal Skills on Worker Performance	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Kawaguchi and Ayako Kondo	4. 巻 Vol. 55, No. 1
2. 論文標題 The effects of graduating from college during a recession on living standards	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Economic Inquiry	6. 最初と最後の頁 283-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ecin.12835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shingo Takahashi, Hideo Owan, Tsuyoshi Tsuru and Katsuhito Uehara	4. 巻 Forthcoming
2. 論文標題 Multi-tasking Incentives and informativeness of Subjective Performance Evaluation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Industrial & Labor Relations Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi	4. 巻 55
2. 論文標題 Effects of Subsidized Childcare on Mothers' Labor Supply Under a Rationing Mechanism	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Labour Economics	6. 最初と最後の頁 p1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.labeco.2018.09.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Asai, Ryo Kambayashi and Shintaro Yamaguchi	4. 巻 55
2. 論文標題 How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Labour Economics	6. 最初と最後の頁 p56-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.labeco.2018.08.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 31件)

1. 発表者名 Yukiko Asai
2. 発表標題 Childcare Subsidies and the Labor Supply of Childcare Workers
3. 学会等名 The Society of Labor Economists (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukiko Asai
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes
3. 学会等名 Tokyo Labor Economics Workshop
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hideo Owan
2. 発表標題 Information advantage or Bias due to Social Ties: Evidence from a Peer Review System in National Research Grant
3. 学会等名 Asian and Australasian Society of Labour Economics Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideo Owan
2. 発表標題 Information advantage or Bias due to Social Ties: Evidence from a Peer Review System in National Research Grant
3. 学会等名 the 25th Colloquium on Personnel Economics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岡島 成治
2. 発表標題 ポートレースでみた競争における性差
3. 学会等名 行動経済学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤香織
2. 発表標題 労働者のメンタルヘルスと労働時間、パーソナリティ、職種の関係
3. 学会等名 日本経営学会第96回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島津明人, 中田光紀, 稲水伸行, 佐藤香織, 荒川豊, 小林正弥
2. 発表標題 これからの職場のメンタルヘルス-労働観の転換と朗働の実現
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Okudaira
2. 発表標題 Parental Investment after Adverse Shocks
3. 学会等名 関西労働研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Okudaira
2. 発表標題 Uncovering Organizational Strategies Behind Employee Downsizing: Evidence from Product Turnover in Manufacturing Plants
3. 学会等名 日本応用経済学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Okudaira
2. 発表標題 Parental Investment after Adverse Event
3. 学会等名 CIRJE Microeconomics Workshop (Tokyo U)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Okudaira
2. 発表標題 Uncovering Organizational Strategies Behind Employee Downsizing: Evidence from Product Turnover in Manufacturing Plants
3. 学会等名 Japanese Economic Association and Korean Economic Association Academic Exchange Workshop
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Okudaira
2. 発表標題 Does Employee Downsizing Work? Evidence from Product Innovation at Manufacturing Plants
3. 学会等名 Asian and Australasian Society of Labour Economics 2022 Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Okudaira, Jessica Pan, Barbara Petrongolo, Joseph E. Zveglic, Jr, Christian Dustmann
2. 発表標題 Panel Session: Gender differences in the labor market
3. 学会等名 Asian and Australasian Society of Labour Economics 2022 Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes
3. 学会等名 EALE/SOLE/AASLE (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takao Kato, Yukiko Asai, Ryo Kambayashi
2. 発表標題 Careers of Married Women and the Nature of Husbands' Work: Evidence from Japan
3. 学会等名 American Economic Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daiji Kawaguchi
2. 発表標題 Population Aging, Productivity, and Technology in Japan
3. 学会等名 Stanford University Japan Colloquium Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川口大司
2. 発表標題 The power of moral suasion: The case of electricity conservation in post-Fukushima Japan
3. 学会等名 関西労働研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daiji Kawaguchi, (Yuko Mori)
2. 発表標題 Impacts of Minimum Wage on Wages and Employment in Japan
3. 学会等名 The Asian and Australasian Society of Labour Economics (AASLE) 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daiji Kawaguchi, (Daisuke Adach and Yukiko U. Saito)
2. 発表標題 Robot, Employment, and Population: Evidence from Articulated Robot in Japan's Local Labor Markets
3. 学会等名 ESRI国際コンファレンス「AI、ロボティクスと労働市場」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口大司 (森悠子共著)
2. 発表標題 最低賃金の賃金と雇用への影響
3. 学会等名 2019年度日本応用経済学会春季大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko, Kuroda
2. 発表標題 Will use of new technologies such as AI/IoT/Bigdata decrease work hours?
3. 学会等名 The 41th IATUR conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko, Kuroda
2. 発表標題 Will use of new technologies such as AI/IoT/Bigdata decrease work hours?
3. 学会等名 2019 International Scientific Event (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai
2. 発表標題 Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms
3. 学会等名 The Society of Labor Economists (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai
2. 発表標題 Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms
3. 学会等名 Western Economic Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes: Evidence from the Japanese Airline Industry
3. 学会等名 東京大学経済学研究科 Empirical Microeconomics Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes
3. 学会等名 Eastern Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes
3. 学会等名 American Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤香織
2. 発表標題 Mental Health Effects of Long Work Hours, Night and Weekend Work, and Short Rest Periods
3. 学会等名 The Asian and Australasian Society of Labour Economics (AASLE) Conference (Singapore) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤香織
2. 発表標題 Mental Health Effects of Long Work Hours, Night and Weekend Work, and Short Rest Periods
3. 学会等名 日本経済学会秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideo Owan
2. 発表標題 How Good Managers Steer Their Projects: Using Value-Added Measures of Manager Quality
3. 学会等名 The 12th Annual Organizational Economics Workshop, Australian National University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideo Owan
2. 発表標題 How Good Managers Steer Their Projects: Using Value-Added Measures of Manager Quality
3. 学会等名 The 22nd Colloquium on Personnel Economics, University of Augsburg (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kuroda, Sachiko
2. 発表標題 Impact of the Work-Style Reform on Overtime Hours and Self-Training Time: Evidence Using Japanese Time Use Data
3. 学会等名 the 40th International Association of Time Use Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shingo Takahashi
2. 発表標題 Multitasking Incentives and Informativeness of Subjective Performance Evaluation
3. 学会等名 Western Economic Association International, University of Newcastle (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shingo Takahashi
2. 発表標題 Multitasking Incentives and Informativeness of Subjective Performance Evaluation
3. 学会等名 International University of Japan, Labor Economics Workshop
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daiji Kawaguchi, (Daisuke Adach and Yukiko U. Saito)
2. 発表標題 Robot, Employment, and Population: Evidence from Articulated Robot in Japan's Local Labor Markets
3. 学会等名 ESRI国際コンファレンス「AI、ロボティクスと労働市場」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko, Kuroda
2. 発表標題 Will use of new technologies such as AI/IoT/Bigdata decrease work hours?
3. 学会等名 The 41th IATUR conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko, Kuroda
2. 発表標題 Will use of new technologies such as AI/IoT/Bigdata decrease work hours?
3. 学会等名 2019 International Scientific Event (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai
2. 発表標題 Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms
3. 学会等名 The Society of Labor Economists (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai
2. 発表標題 Costs of Employment and Flexible Labor Demand: Evidence from Maternity and Parental Leave Reforms
3. 学会等名 Western Economic Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes: Evidence from the Japanese Airline Industry
3. 学会等名 東京大学経済学研究科 Empirical Microeconomics Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes
3. 学会等名 Eastern Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko Asai and Dmitri Koustas
2. 発表標題 Temporary Work Contracts and Female Labor Market Outcomes
3. 学会等名 American Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤香織
2. 発表標題 Mental Health Effects of Long Work Hours, Night and Weekend Work, and Short Rest Periods
3. 学会等名 The Asian and Australasian Society of Labour Economics (AASLE) Conference (Singapore) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤香織
2. 発表標題 Mental Health Effects of Long Work Hours, Night and Weekend Work, and Short Rest Periods
3. 学会等名 日本経済学会秋期大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 朝井友紀子・地曳暁瑛 (第6章)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 197
3. 書名 山重慎二 編集「日本の社会保障システムの持続可能性：データに基づく現状分析と政策提案」	

1. 著者名 黒田祥子（分担執筆）、小林 慶一郎、森川 正之編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日経BP	5. 総ページ数 384
3. 書名 『コロナ危機の経済学：提言と分析』、第16章「新型コロナウイルスと労働時間の二極化 - エッセンシャル・ワーカーの過重労働と日本の働き方改革」	

1. 著者名 黒田祥子・山本勲	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 392
3. 書名 『雇用システムの再構築にむけて』（分担執筆、第9章「労働者の健康向上に必要な政策・施策のあり方：労働経済学研究を踏まえた論考」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>組織経済実証研究所 https://www.waseda.jp/inst/cro/institutes-list/institute-for-empirical-research-in-organizational-economics/ 企業内データ計量分析プロジェクト http://www.waseda.jp/prj-ea-pecon/index.html 早稲田大学研究者データベース http://researchers.waseda.jp/profile/ja.ff2520d45d9eb8d2f48b8ea67d2d850d.html 独立行政法人経済産業研究所フェロー紹介 https://www.rieti.go.jp/users/owan-hideo/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	朝井 友紀子 (Asai Yukiko) (10588172)	早稲田大学・政治経済学術院・その他（招聘研究員） (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黒田 祥子 (Kuroda Sachiko) (50447588)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	岡島 成治 (Okajima Shigeharu) (50733549)	大阪経済大学・経済学部・准教授 (34404)	
研究分担者	高橋 新吾 (Takahashi Shingo) (70445899)	兵庫県立大学・国際商経学部・准教授 (24506)	
研究分担者	川口 大司 (Kawaguchi Daiji) (80346139)	東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・教授 (12601)	
研究分担者	佐藤 香織 (Sato Kaori) (90806431)	明治大学・商学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	木村 寛子（奥平寛子） (Okudaira Hiroko) (80550954)	同志社大学・ビジネス研究科・准教授 (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

米国	California State University	Columbia University	Chicago University	他3機関
中国	暨南大学			